



地域日本語支援ニュース こだま 第 400 号

2021.4.22



★—— メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます。——★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

★—— 皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。——★

編集部: <https://www.ajalt.org/local/soudan/contact.html>

==== 目次 =====

1 ■ 新年度のご挨拶 ■

公益社団法人国際日本語普及協会 (AJALT)

理事長 関口 明子

2 ■ お知らせ ■

AJALT の著作教材を活用した

「日本語教師のための教え方講習会」(オンライン) 開催のお知らせ

=====

1 ■ 新年度のご挨拶 ■

公益社団法人 国際日本語普及協会

理事長 関口 明子

皆様こんにちは。

いつもメールマガジン「こだま」をお読みいただきありがとうございます。
多くの読者の皆様に支えられ、2021 年 4 月 22 日、400 号を迎えることができました。今、2034 名様(2021 年 4 月 22 日現在)にお読みいただいております。感謝の気持ちでいっぱいでございます。

昨年度はコロナ元年でしたので、想定外の出来事を前にして、日本人、外国人ということではなく困難の中、日本で生きている人間として手を携え、助け

合い、一所懸命できることを真剣に行動していきましょうということで大きなテーマを「日本で生きる」にしました。心温まる多くの原稿をお寄せいただきました。ありがとうございました。

昨年書きましたように何でもない日常の生活——家族で出かける、友達と会う、毎日同僚と一緒に働く、同国人のイベントに参加する等々——普通のことかどれだけすばらしく、温かく、うれしいことだったのかがわかりました。私にとりまして、すべてに感謝が足りなかったことに気づいた貴重な年でもありました。今後決して忘れてはいけないことだと考えております。

AJALT もコロナ元年を何とか乗り越えて 2021 年度を迎えました。初めてのテレワーク、オンライン会員定例研修、オンラインレッスン、各種オンライン会議等目まぐるしく、無我夢中の一年でした。多くを学びました。会員研修ではヨーロッパやハワイの会員に会うことができました。来日できないアフリカの方々と、現地からオンラインレッスンができました。

コロナが収束したら元に戻るのではなくコロナ禍で学んだ多くのことを踏まえて新しい日常を作っていかなければならないと実感しています。しかしまだまだ先がみえず、収束とは程遠い現状です。

あらゆることがグローバル化されていく 2021 年度の「こだま」のテーマは「ともに生きる～地域で、日本で、そして世界で～」になりました。地球上の人々が同じ苦しみにあっている今こそ、国籍、人種、性別等を超えて「ともに生きる」ために知恵を出し合って、世界平和に向かって進んでいくことが求められていると思います。2 年目に入ったコロナ禍の中で地域に在住している外国の方々が大変な思いをしていらっしゃる。その声をぜひ支援者の皆様を通してお知らせいただきたいです。悲しいミャンマーの状況、ロヒンギャの人々、帰国できない技能実習生等々。私たちの身近に母国を心配している人々がいます。コロナ禍の中、たくましく、頑張っている人々もいます。この厳しい時期だからこそ、「共に生きる」ためにできる努力をしていきましょう。

コロナの犠牲になられた方々のご冥福をお祈りいたします。また現在苦しんでいらっしゃる方々へ心からお見舞いを申し上げます。また、医療従事者の方々、日々感染の危険最前線の中で働いてくださっている方々に深く感謝申し上げます。ありがとうございます。

今年度のテーマ「ともに生きる～地域で、日本で、そして世界で～」のタイトルで多くの方々の声を「こだま」にお寄せください。お待ちしております。
